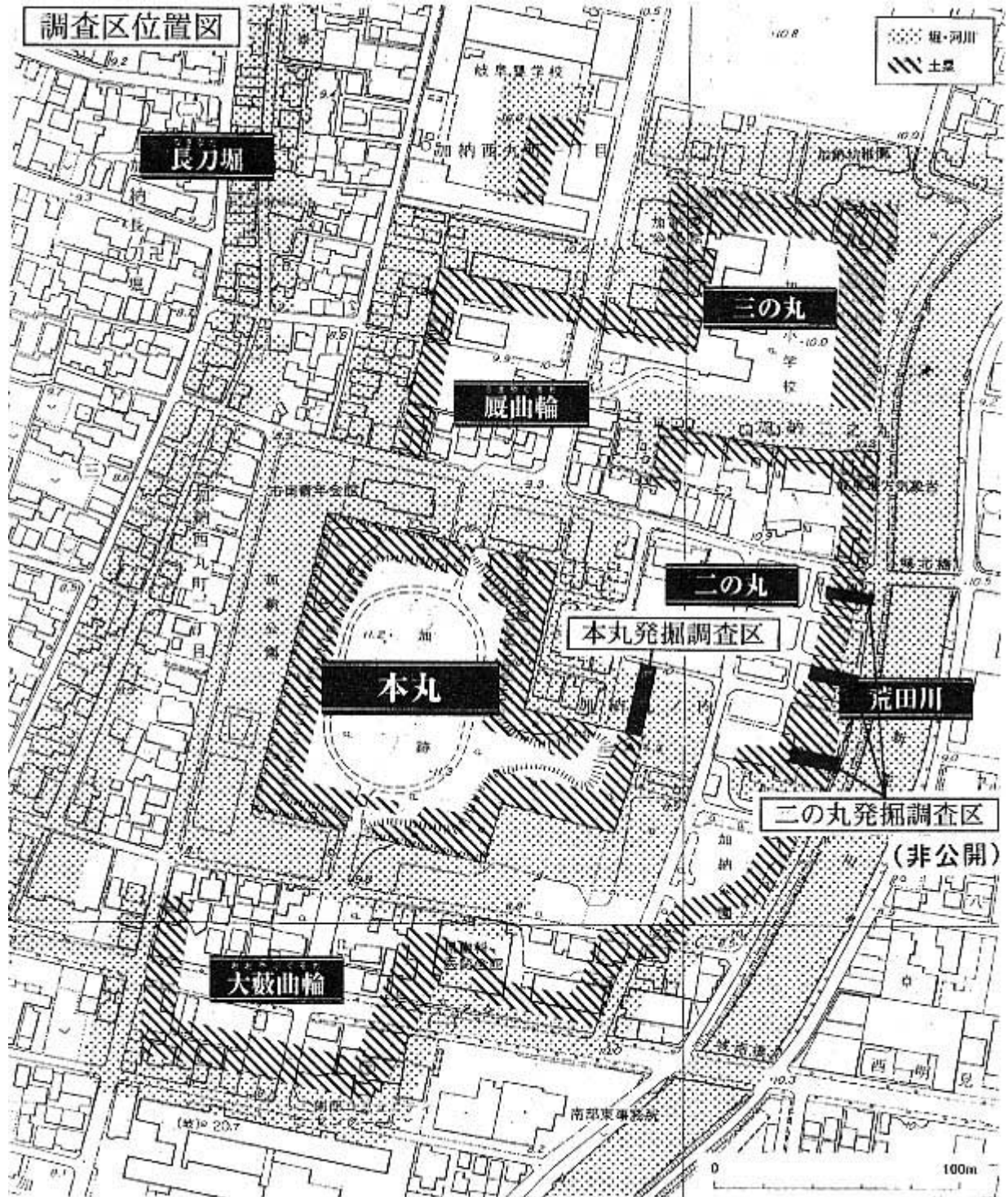


# 史跡加納城跡 現地公開資料

日時；平成15年8月16日（土）

午前10時～正午

場所；岐阜市加納丸之内



岐阜市教育委員会

(財)岐阜市教育文化振興事業団

## はじめに

加納城跡は 1983 (昭和 58) 年に国指定史跡となって以来、整備を目的とした発掘調査が継続的に実施されています。今年度の調査は、本丸では 9 回目、二の丸では 6 回目を数えます。現在、調査は継続中ですが、その成果を公開します。

## 本丸の調査

今回の調査場所は、二の丸から本丸へ至る大手門 ( 絵図によれば橋が架けられていた ) のやや東にあたります。幅約 5 m、長さ約 32m の調査区を設定し、この位置での堀の状況と、本丸石垣の基礎の状況、また二の丸側の石垣の残存状況等を確認することを目的としました。

本丸石垣は、現況では 2 ~ 3 段しか残っていない箇所でしたが、地中には 3 ~ 4 段が埋没していることが分かりました。

また、初めて本丸の対岸の石垣を確認することができました。1 段しか残っていませんが、周囲の土の状況からも石垣であることは間違いのないと思われ、上部は後世に破壊されているようです。

この部分の堀の幅は、石垣から石垣までで、約 28m であることが判明しました。堀の最深部は、現地表下約 2.5m です。

堀の断面は、本丸石垣前に平坦部があり、また堀のほぼ中央で高くなる形状をしています。過去 5 回の堀の発掘調査結果も同様で、加納城本丸の堀の特徴といえます。

また堀の中から、本丸側と二の丸石垣の前の 2 カ所で、瓦の集積が出土しました。本丸側の瓦集積の一部は、赤白く変色し、火事等による 2 次的な被熱を受けていると見られます。両者とも、加納城で見られる最新の瓦が含まれていないと見られることから、江戸時代のある時期に、建物の改修等において不要となったものをまとめて捨てていると思われれます。



本丸の堀 (北から)



本丸の石垣 (北から)



二の丸側の石垣と瓦集積 (東から)



本丸側の瓦集積 (北から)

## 二の丸の調査 (非公開)

今年度の二の丸内の発掘調査は、東辺の石垣の位置を確認することを目的としました。そこで、まず発掘調査に先立ち、南北約 110m、東西約 20m の範囲において、非破壊で地中の様子を探ることのできるレーダー探査を実施しました。その結果、平成 13 年度に実施した発掘調査結果に類似する様相が確認できました。

レーダー探査の結果を受けて、幅約 3 m、長さ約 20m、東西方向の調査区を 3 本設定し、発掘調査を行いました。今回の発掘調査では、必ずしも完全に一致する結果は得られていませんが、外郭 (石垣) の位置はおおよそ把握できると考えられます。

いずれの調査区でも二の丸東辺の石垣と、その西側には土塁を検出することができました。土塁は上部が後世に削平され、江戸時代の様子を留めていませんが、裾に近い下の方は、比較的良好に残っていることが確認できました。

南端の発掘調査区で出土した石垣は、3 段が残っており、背後には裏込めの礫層が検出できました。また土塁の西側の裾も確認できました。

中央の発掘調査区で見つかった石垣は、あまり残りが良くありません。付近で確認できる攪乱から、石垣に使用されていたと見られる石材が出土していることから、比較的最近に壊された可能性があります。

北端の調査区の石垣は比較的良好な状態で残っています。石垣の前には壊されて転落した石材が多く出土しています。



レーダー探査の様子